

太日本

門人良國述

卷之三

大學講義

著者　良國發行

大學章句講義序

吾喜博涉周漢古書，而是爲最。其故有一，蓋文明之道雖一而不足，要在乎明己之文德，以新元元是書乃專說明德，而革新民人。此所以是爲最之一也。慎奉上帝警戒，遵守政府法令，憲章聖賢教誨。

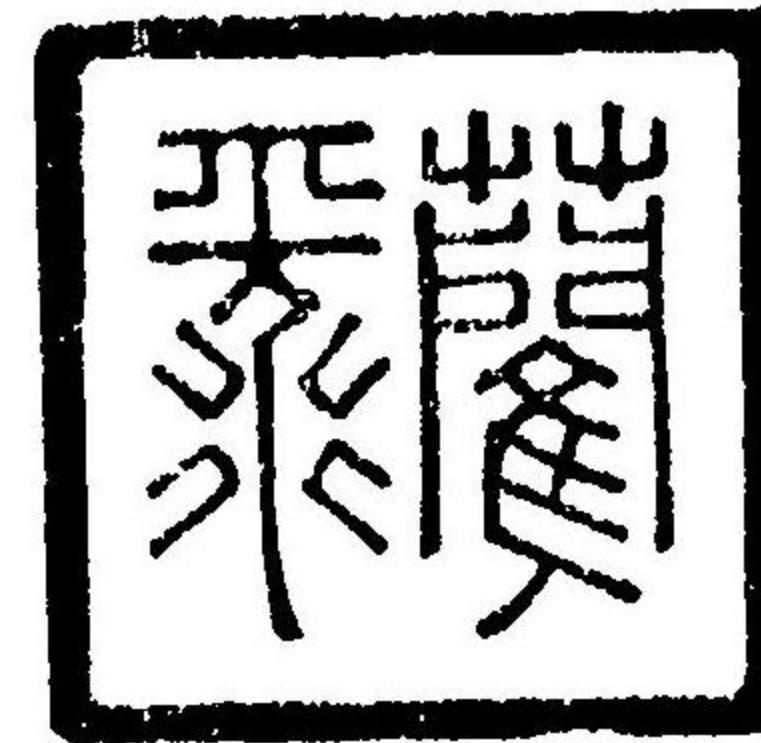
大學章句講義序

吾喜博涉周漢古書，而是爲最。其故有二。蓋文明之道雖一而不足，要在乎明。己之文德以新元元是。是書乃專說明明德而革新民人。此所以是爲最之一也。慎奉上帝警戒，遵守政府法令，憲章聖賢教誨。

以履世路，不敢爲他妨之。謂自由之道，則自由者俗眼看之，乃不由矣。而是書教人以明德於天下，此教自由之道乎？人苟非躬行，治國齊家以下，七課者曷得明？明德於天下，則何自由之有？夫然，故是書之所爲教，卽不自由之道。吾因斷是以爲自由真訣，而味野群籍，莫加焉。此所以是爲最之二也。今是書有斯二最，且久行于我，然所以不多益乎？我文明者注焉，者之罪也。非是書之罪也。嗟夫，西之進我文明也，急矣。而俾我兄弟輕薄爲風，道德泯焉。當是時也，當

救藥焉者獨有是而已則此舉豈可止哉明治十八年一月初土曜

日明卿岡道題于大學講義卷首



凡例

- 余向キニ朱子學ヲ好ム、乃チ其章句本ニ就テ之ヲ解釋スルヲ老師岡先生ニ乞フ、先生其勞ラ厭ハレズ、爲ニ之ヲ講スル數日ニシテ業ヲ終ヘリ、時ニ余乃ナ遺忘ノ用ニ供スルカ爲ニ、其講スル毎ニ、聽グニ從フテ之ヲ筆シ、遂ニ卷ヲ成シ名ケ以テ學庸講義ト爲イ、近者世間年ニ輕薄ニ流ル、ヲ觀因テ道學ノ地ヲ掃フニ至ルヲ憂ヒ、先ツ大學講義ヲ淨錄シ、以テ正ヲ先生ニ請フ、先生乃チ其舉ヲ嘉シ玉ヒ、復其筆ヲ勞スルヲ厭ハセラレズ、大ニ削正ヲ加ヘラレタルハ、獨リ余ノ幸ノミナラズ、又天下道學ノ士ノ大幸也、

- 先生ノ口講ヲ聽キシハ、正ニ文章軌範ノ講説ヲ聽キシ後(明治十四年)ニ在リ、故ニ其筆記ノ様子

ノ如キハ、彼書ト同ク、專ラ通俗ノ語法ヲ用ヒタ
リ蓋シ一ハ世人ノ解了シ易キ為メ、ニニハ務メ
テ先生ノ口氣ヲ寫サ
ント欲シテ然スルヘ、

○朱子ノ學庸ノ序ハ、其家學ノ歸趣^{オキニ}ヲ發揮スル
者ニシテ、朱子學ヲ為ス者ノ尤モ知ラザル可カ
ラザル者心、故ニ開

卷始ツ是ヨリセリ、

○先生ノ講説ハ、高ク古人ノ上ニ出ル、其幾等ナル
ヲ知ラズ、故ニ此レ則チ章句本ニ據ルト雖モ、其
講意ノ如キハ、晦菴ト異ナル者極テ多クシテ實
ニ新奇ヘ、以テ視ル可シ先生常ニル一テンマアル
チシヲ以テ自ラ擬ス
ルノ虛ナラザルヲ、

○先生既ニ朱子ノ補傳ヲ以テ尤モ非ト為ス、而ル
ニ今猶之レカ解釋ヲシテ之ヲ存スル者ハ、世ヲ
附導スルノ老婆心ヨリ然
スルヘ、讀者焉コレ察セヨ、

○大學本文ノ順序ハ、獨リ先輩多ク其見ヲ異ニス
ルノミナラズ、先生モ亦晦菴ノ序次ヲ以テ未タ
總當ナラズト為スノ處多シ、然モ本講ノ如キハ、
余ノ請フ所ニ出ツ、故ニ專ラ晦菴ニ從ヒ、唯其甚
タ穂ナラサルノ所ノミ之ヲ改メタリ、此レ亦余
非也、他日時有ラバ、又當ニ焉ヲ請フ
テ先生定見ノ序次本ヲ上梓スベシ、
○首章ヨリ九章至マテハ、其錯簡ヲ改ルニ於テ、甚シ
キノ所無シ、故ニ之ヲ改メシ所ニ在テハ、章中必
ス之ヲ註セリ、十章ニ至ルニ及テハ、其錯簡ヲ改
ムル殊^ダ多シ、是ヲ以テ其煩ヲ避け、以テ之カ註
疏ヲ畧セリ、讀者故ニ舊本ト參
看也ハ、則チ當ニ之ヲ知ルベシ、

○世人先生ノ文章家爲ルヲ知リテ、其文章ノ盡ク
其道徳ニ淵源スルヲ知ラズ、今乃チ之ヲ讀マバ、
則チ知ル可シ、其道徳ノ素有ルヲ、且以テ人爲ル
者ハ道徳ニ深篤ナラザレバ、則チ能文ノ士ト成
ル能ハザルヲ
ヲ知ル可シ、

○論語ノ口講モ亦焉ラ與リ聽クラ得タリ、而シテ先生既ニ孟子講義ノ自著有リ、故ニ余異日間ラ得テ論語講義ヲ淨書シ以テ先生ノ筆削ラ請フテ梓ニ上セ、四書ノ講説ラシテ完備セシメント

ル欲
ベス

明治十七年十二月

長岡道謙誌

大學章句序講義

大學ハ小
學校ニ對
スルノ辭
ニシテ、則
チ大學校

首節八大
學ノ緣故

推測ルト訓ム
蓋ハソモ

卷之二十一

天ハ造化
ノ神ヲ指

ヨリ仁義
禮智ノ善

仁義禮智之性，矣。然其氣

質之稟或不能齊是

蓋自天降生民^{アヒ}、則^{シル}既^シ莫^ル不^シ與^ル之^セ。

ル者ア有
蓋自天降生

大學之書。古之大學所以教人之法也。

卷之二

附ケタル者ヂ有リマス

事相等を順序に追テ述
コテ大學章句ノ序ト名

朱子が自ラ大學ノ章句ヲ分ナ作リタル

此一篇八此大學ト云フ書物ノ事柄ヤ、又

順序ヲ追テ事柄ヲ述ルヲ幸ト云ヒマヌ

學章句序講義

卷之二

性ハ心ヲ性ヲ人ニ
謂フ、賦與スト

裏ハウケ雖モ人々

ルニ、其氣質ノ

或ハ中ニ均シカラ

ハアリトナルヨリ、其仁義禮

訓ム、不能齊ハ智ノ性ヲ

下ソロヒニスル能ハザル

ガデキヌヲ說久

所有ノ有ハ固有フ

耳ノサト三節ハ一

謂ト人民ノ間ニ出ル有

眼ノ明ナレバ則ナ

ルヲ明ト必ス天命

言フ、睿智ハ敏帝王ト爲

キ智ヘ、億兆ハ衆

多ノ人民ヲ言フ、

本ニ復カ回復ス此ヲ復ト言

繼天ハ猶天ニ代ル所

ト言フコト言ハ

以不能皆有以知其性之所有而全之也。蓋_{天ヨ}

リシテ人民ヲ此國土ニ降シ生レサセマス

レバ、則チ既ニ天カラシテ人民ニ授ケ與ヘ

玉フニ仁義禮智ノ善キ心性ヲ以テセヌ

ハ有リマセニ夫_サ天カラシテ既ニ人民ニ

授ケ與ヘ玉フニ仁義禮智ノ善キ心性ヲ以

テセヌト有リマセンケレバ、人民ハ皆其仁

義禮智ノ善キ心性ヲ全フ致シマス宜_シナ

レ_ニ然モ内體ヨリ裏ケタル氣質ヨリシテ

中ニハ一樣ニスルトカ出來ヌ者ガ有リマ

ス、是ノ故_ニ以テ人民皆盡ク其仁義禮智

ノ心性ハ己レノ固有_ニナル所_ニ知ルト

得_シソウシテ之ヲ全クスルトか出來ヌノテ

マス、一有_大聰明睿智能盡其性者出於其間。

而司徒之職典樂之官所由設也。_{萬一其中ニ}聰明睿智ト

テ目カラ鼻マデ拔ケ通ル程ノ人物ニテ能

ク其固有ノ仁義禮智ノ善性ヲ盡ス者ガ其

間ニ生レ出ルトガ育リマスレバ、則チ天ヨ

リシテ必ス之ニ命_ニ致シマシテ、其人ヲシテ人

君ト爲シ師匠ト致シマシテ、其人ヲシテ人

民ヲ治メテ之ヲ教導サセテ、ソウシテ人民

ス、此レガ乃チ伏羲ヤ神農ヤ黃帝ヤ堯舜ナ

ド、云フ帝王カ天ニナリ代リテ人民ノ爲

メニ法則ヲ立テタル所以_ニテ、ソウシテ

トシ、四節ハ學

司徒ノ職ダノ典樂ノ官ダノト云フ教導ノ役向ヲ設ケタル所ニテ有リマス、三

三代ハ夏校ノ備ハ

ノ代殷ノリシ事ヲ代周ノ代括迄言ヒ、以下ノ文

ノ代殷ノリシ事ヲ

ノ代殷ノリシ事ヲ、以下ノ文

民ト同シ 大小學校
ノ區別ヲ 校致シマス、而シテ之ニ教ヘマスニハ大學
俊秀ハス クレテ秀
クレタル者 俊秀ハス
テタル者 説ク者ベ
夫ハサテ ト轉シ説
ト轉シ説 六節ハ先
クノ絆、 シ三代學
以ハ思考校ノ盛大
スルヲ言 ナルヲ褒
フ、オヨフノ、次ニ其
ニト訓ム、教へ方ハ
節目ハ課 人間當然
如シ、 テスルヲ
躬行ハ學 論ス、
ヒ得タル此節ニ三
事ヲ其身代ノ教ニ
ニ行フヲハ異紙事
吉ス、 無キヲ寫
妻倫ハ人之下ノ十
倫ト同シ、ニ節ニ照
即ナ父予シ令ハセ
ニ親ミ有ル、
リ夫婦互
ニ愛スル
如キ是レ
此小節ハ
焉ハ學校 三代ノ學
ヲ指スヨ者ハ能ク
之

大小學校 テ才智ノ優スクタル者マヂ、皆々大學校ニ入
校致シマス、而シテ之ニ教ヘマスニハ大學
ノ本文ニ載セル所ノ窮理ヤ正心ヤ修身ヤ
治人ノ仕方ヲ以テシマス、三代ノ時ノ大學
校ノ模様ハ大畧此 以テ上文
ヲ求ム、
夫ハサテ ト轉シ説
ト轉シ説 六節ハ先
クノ絆、 シ三代學
以ハ思考校ノ盛大
スルヲ言 ナルヲ褒
フ、オヨフノ、次ニ其
ニト訓ム、教へ方ハ
節目ハ課 人間當然
如シ、 テスルヲ
躬行ハ學 論ス、
ヒ得タル此節ニ三
事ヲ其身代ノ教ニ
ニ行フヲハ異紙事
吉ス、 無キヲ寫
妻倫ハ人之下ノ十
倫ト同シ、ニ節ニ照
即ナ父予シ令ハセ
ニ親ミ有ル、
リ夫婦互
ニ愛スル
如キ是レ
此小節ハ
焉ハ學校 三代ノ學
ヲ指スヨ者ハ能ク
之

之之術。其次第節目之詳又如此。而之所以爲
教則又皆本之人君躬行心得之餘不待求之。
民生日月妻倫之外。サテ吾三代ノ事ヲ考へ
都ヨリ閑巻マデ行届クヤ上文ニ述ル通リ
テ有テ、之ヲ教育スルノ仕方ハ、先ツ灑掃應
對等ノ事ヨリ順序ヲ追ヒ次第くニ教ヘ。竟
ニ修身治人ノ道ニ至ル如ク。其課目ノ詳カ
ニ備ハルモ又上文ニ述ル通りデ有リマス、
而シテ其教授スル事ハドンナトカト云ヘ
バ、外ノ事デハ無久、則チ此レモ又皆其時ノ
人君が平生自ラ其身ニ行ヒ其心ニ貯ヘ得
タル所ノ餘行餘德ニ木ヅクヲ以テ主意ト
シマシテ、決シテ之ヲ人民平生日用ノ事、仁
義五常ノ外ニ求メテスル様ナ教へハ致シ
マセシ、故ニ少シモ佛道ヤ、ナニカノ
様ナ奇怪ナル教へハ有リマセン、是以

コニト訓天性ヲ知
リ己レノ

分之所固有職分之所當爲而各俛焉以盡其

固有ハモ職分ニ安
チマイニシシダル

力人ハ學問セヌ者ハ有リマセシソウシテ
故ラ以テ當世即チ夏殷周三代ノ

己ノ身ニヲ諭ス
本力ヲ持此兩小節

其大小學校ニ於テ學問スル人達ハ其天ヨリ受ケタル性分ノ固有^モ仁義禮智ナル

チ居ルヲヲ合セシ
言フ、
節ト為ス

ヲ知り得者無ク。天子ニハ天子父ケノ職分有リ。公卿大夫ニハ公卿大夫ダケノ職分有リ。庶人即チ平民ニハ平民ダケノ職分有リ。無人即チ平氏ニハ平民ダケノ職分有

後ノ流也

有。庶ノ民ニ正日ニハ立日ノ事也。取死有
リト云フ様ニ。銘々其職分ノ當ニ爲ス所ノ
ヲ知リ得ヌ者無シ、而シテ銘々各勉強シ

ル様ヲ形此小節ハ

テ其當ニ爲スベキダケノ職分ノ爲メニ其力ヲ盡シ

之、二、八、上、下

此古昔盛時所之清隆於上俗美
マシタ、

カシン
ナルタ根

方下而非移世之角前不一也夏殷周三代ノ盛

此政ノ字

ノ・人・民・ノ・風・俗・ガ・下・ニ・美・ヨ・ク・有・リ・シ・所・以・好・ラ・デ
有・リ・マ・シ・テ・而・シ・テ・ナ・カ・イ・後・ノ

八今ノ教

世ノ能ク及ブ所デゴザラヌ、及周之衰

半者ト爲下ニ分ツ

聖賢之君不作學校之政不脩教化陵夷風俗

陸鬼ハ無テ大小ノ
クナリシ 學校廢ス

聖人之學而天下無君自之仁

ア云
ア訓キ下

後世。其後周ノ代が衰微スルニ及ヒマシテ、堯

レルニ
大小學校

アヨミナ校スルヲ
説久

教諭シ風俗ヲ變化スルノ仕方が丘陵が崩
レア平夷ナル土地トナリシ様ニ盡ク無ク

詔ハ告ケ此節ハ孔
子が大學ノ經文ヲ
口授シタ
曲禮少儀ルヲ說
内則弟子ク者ニ
職ハ皆書籍ノ名
支流ハ枝河也
餘裔ハ裙學ノ書類
ノ餘残也、ヲ借り以
支流餘裔ア大學ノ
八其課目經文ノ他
中ニ於テニ比ス可
一體ノ書キ者無キ

九節ハ小
極其規模之大ハ其
様子ノ廣大無邊ニ
見ニルヲ
言ス
徒ハ弟子ヲ云
蓋ハソハ
ト訓々上
ヲ承ケ説
クノ辨

類ナルヲ
譬テ云
大學生於
大學ニ於
之大ハ其
様子ノ廣
大無邊ニ
見ニルヲ
言ス
徒ハ弟子
ヲ云
蓋ハソハ
ト訓々上
ヲ承ケ説
クノ辨

ヲ形シ言
フ、
者也。ソレハサア置、カノ曲禮ヤ少儀ヤ内則
ヤ弟子職ナドノ諸篇ノ若キ書物ハ、罔
ト是レ三代ノ小學校ニ於テ教ヘシ一種ノ
課書也、而ルニ此篇即チ大學ノ經文ノ如キ
ハ、則ナ三代ノ小學校教育ノ成功ニ因リ、竟
ニ以テ三代ノ大學校中ニ明示シタル所ノ
法則ヲ書キ著ハシタル者ニテ、外貌ヲ以テ
之ヲ論シアミレバ、明徳フ天下ニ明ニスト
云フ様ニ其規模也ノ大ナルヲ極メマシテ、
家治國平天下等ノ課目ノ詳力ナルヲ書
キ蓋シテ有ル書物デアリマス、此レが大學

十節ハ曾
ノ傳文ヲ
子が大學
ト謂フ可
耳、而モ說
フ立ル巧
ノ一家言
ツハ朱子
ノ一家言
見ニルヲ
言ス
徒ハ弟子
ヲ云
蓋ハソハ
ト訓々上
ヲ承ケ説
クノ辨

曾氏之傳獨得其宗、於是作爲傳義、以發其意。

十リ、人民ノ風俗が甚シク敗レ乱レマシタ。
此ノ時ニ則ナ世ノ中ニ孔夫子ノ若芯聖人
ガ有リマシタケレバ、サレニ國君ト爲リ師
匠ト爲ル必位ニ升リテ其政事ヤ教育令ヲ
施行スル者、が出來マセナシダ、是ニ於テ孔
夫子ハ據ドコロ無ク自分獨リ夏殷周三代
ノ先王方ヨリ傳ハリマシタ大小學校ノ法
則ヲ取り集メ、口ツカツ諸誦シテ之ヲ御弟
子達ニ傳授シ、以テ後ノ世ノ君子ニ詔ケ傳ヘル様ニ致シマシタ。
若曲禮、少儀内則弟子職諸篇固小學之支流餘裔、而
此篇者、則因小學之成功以著大學之明法。外
有以極其規模之大、而内有以盡其節目之詳。

詩

卷之三

ク謀畧ヲハ諸造ノ
以テ功ヲ人民ヲ惑

立ル者ヲシ欺ク者
云入

術數ハト久・此ニ
筮等ノ如小節フ合

ヤラ言フセ十二節
之就ハ成ト

同シ、技ハウザ
ベ

充塞ハ掩十三節ハ
ヒ寒ク心此時ノ君

クアス子小人ハ
ヲ天

紛然ハゴ小學校ノ
タク出ル如キ教ヘ

不幸ハ不
仕合ベ
育ハメク
ヲハ

下遂ニ大
乱ト成ル
フ言入

否ハ閉ル
ハ病之
壞ハ破レ
唐亡ヒシ
後宋ニ至
セマズ文

痼ハフル
病ハフル
壞ハ破レ
唐亡ヒシ

立ル者ヲシ欺ク者
云入

術數ハト久・此ニ
筮等ノ如小節フ合

所以惑世誣民充塞仁義者。又紛然雜出乎其
間。其他ニハ兵法家力權變ノ謀畧ヲ出シ。陰
陽ト筮ノ士カ術數ヲ以テスル等ノ如キ
總シテ是等ノ伎ヲ以テ功績ヲ立テ名譽ヲ
成ス輩ノ說ト夫ノ百家古事記タノ學問ニ
由テ一家ヲ爲ス諸先生ヤ衆技トテ色々ノ
藝能ヲ以テ世ニ鳴ル人達ノ流派ト、世間ヲ
惑ハシ人民ヲ欺誣テ仁義ノ水性ヲクラ
マス者ガ、又ゴタクト俗儒ト異端ノ間ニ雜

道出テ
タリ、使其君子不幸而不得聞大道之要。
其小人不幸而不得蒙至治之澤。晦盲否塞。反
覆沈痼。以及五季之衰。而壞亂極矣。上文ニ述
ル甚シキ勢ヒ故、其時ノ君子即ナ學者達ハ
不仕合セニテ大學ノ本文ノ様ナル結構ナ
道ノ肝要ナル旨ヲ聽聞スルトカ出来マセ
ナシグ、又其時ノ小人即ナ無學ノ人民達セ
不仕合ニテ大學ノ本文ニ述ル様ナル至極
宜シキ治メ方ノ恩澤ヲ蒙ルトカ出來マセ
ナシダカラ、ル故也カラシテ學者モ人民モ
皆盡ク仁義禮智ノ本性ガ晦盲人ノ様ニ
ナリ。否塞トテ人智ノ進歩カ閉ざ塞アツク、反覆
トテ天下ガヒックリカヘリ。譬へハ食物カ胃
巣ニ沈滯トヒリ。痼疾ト爲リシ様ニナリマシ
タ、ソコヅ以テ五季トテ唐ノ末ヨリ天下カ
五ツニ分レ戰ヒソレモ次第ニ衰微スル頃ニ
ナリマシテ支那ノ全國ハ山ノ崩レ壞レタ

那分レテ十四節ハル様ニ大亂ノ極	度ニナリマシタ、天運循環無往不復宋德
五ト爲リ宋ノ太平	戰入之ヲニ由テ兩
五季ノ亂	程子出テ
ト謂ス	孟子ノ道
猶環ハグ	統ヲ接續
ルくメクシタルヲ	說キ以テ
復ハ木ニ	己レ大學
カヘルヲ云	源ト爲ス
休明ハ猶	作ルノ淵
名程氏ノ	ヒ木ニ遷ヘリ、因テ太平ノ世ト爲リ、宋ノ天
トシ	五季ノ衰微セシ時ニハ天下が大亂ノ極度
公明ノコ	迄行キツマリマシタカラ、ソヨデ天下ノ勢
河南ハ地	ヒ本ニ遷ヘリ、因テ太平ノ世ト爲リ、宋ノ天
光祖ノ出	マシテ世ノ治メ方ヤ人民ヲ敎育スルノ仕
タル地ニ	方ハ夏殷周三代ノ時ノ様ニ公明正大デ有リ
接ハック	リマス、カク天下が泰平ナルニ由テ河南ノ
表章ハ人記ヨリ拔	程氏即チ明道先生伊川先生ノ御兩人が世
ノ見ル様出レテ表	傳ト云テ道ノ血筋ヲ受ケ繼キマシタ、實
一表面ニ章シタル	ニ出テ玉ヒ而ニテ孟軻先生ノ道統之
現ハスヲノ故ヲ以	傳ト云テ伊川ノ兩先生ハ實
次ハ順序書カ始テ	此世ニ於テ始テ此大學
ヲ定メル世ニ出テ	ノ一篇ヲ尊ニ信セラレマシタ、ソヨデ表章
タルヲ言	トテ此大學ノ一篇ヲ禮記ノ中ヨリ拔出シ
簡編ハ木ノ紙數ト	顯ハシ玉ヒ其後又是ガ爲メニ大學ノ冊紙
ノ紙數ト	ノ順序ヲ定メテ、大學ノ意味ヲカリ分ル
爲シ看昌	様ニ致サレマシタ、カクシテ後ニ上古三代
歸趣ハ吉	ノ時ニ大學ニ於テ人氏ヲ敎諭致シタル仕

趣ト同一

指ハ旨ト此小節ハ
直傳ニ非就ナ程氏其著書ニ
ス、書ヲ以ノ學流ヲ
テ傳ルヲ學上タル

私淑ト曰

人語ハ孟フ言ス、
子ニ見ヘ此小節ハ
ナリ。

程氏ノ註
ノ放失ス、生ノ事ヲ顧ミ思ヒマスニ其著ハサレタル
火學註釋ノ書ハ大分散リ失セタル所ガ有

リマス、是ヲ以テ己ガ身分ノ固陋ナルモ忘

ナ、顧其爲書猶頗放失是以忘其固陋采而

輯之間亦竊附己意補闕略以俟後之君子。

光

リマシナ、此註釋ヲ集メ其集註ノ間ニ亦己
レノ意見ヲ附ケ加ヘテ其闕畧トテ註ノ不

足スル者ヤ註ノ畧セシ者ヲ補ヒマシタ、斯
ク致シタレモ、大學ノ書ハナカく吾レノ

手ニ及フ者ゾハ有リマセシカラ、斯ク致シ
以テ後ノ世ノ君子先生ノ訂正シテ正ニ歸

スルヲ待チマス、此レカ朱子ガ
此章句ヲ作ラレタル所由アベ、極知僭踰

ルベ、
註八集メ六節ヘ、
云、
本ヲ作リ

シク湯ハ本ヲ作リ
カナルヲタルヲ言ス此レ十

ルベ、
極知ハ急度ト知ル
極知ハ急度ト知ル
爲スマジクシナ
スヲ僭踰

十七節ハ此章句本ノ世ニ補ヒ有ルヲ
吉ヒバア上文ヲ收ム

治人之方則未必無小補云。斯ク大學ノ書ノ
無所逃罪然於國家化民成俗之意學者脩己

也、
爲スマジクシナ
スヲ僭踰

ノ世ニ補ヒ有ルヲ
吉ヒバア上文ヲ收ム

也、
爲スマジクシナ
スヲ僭踰

也、
爲スマジクシナ
スヲ僭踰

デ十二分
ニ抑久故

ト、是ニ於テ此小段ニ於テハ尺三代ノ大小學校ノ名實校則課目等ヲ寫スハミニ

曲禮少儀
ニ天運以
少則弟子下ノ大ニ

シ、以テ下文ニ於テ大小學ノ書籍全備ノ事ヲ寫スノ地ト作ス、謂フ可シ大ニ文人

職等ヲ以揚ルヲ見

ノ手段ヲ得タリト、此手段ヲ觀、以テ見ル可シ朱子其人ハ後ノ腐儒ト大ニ異ナル

テ三代小ルニ學者

ノ手段ヲ得タリト、此手段ヲ觀、以テ見ル可シ朱子其人ハ後ノ腐儒ト大ニ異ナル

學課書ノ之ヲ熟玩

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

枝餘ト爲

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

是レ朱氏ノ筆法ヲ

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

ノ一家言悟ルヲ得

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

耳亦焉ラベシ

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

知ラザル

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

可カラズ、三代ノ太

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

平ヲ極寫

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

シ形映ス

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

優々ト書

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

ノ著ス

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

見第四段

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

季ノ亂

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡スヲ論ス、此レ乃チ其大小學校ノ

極寫シ形

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡斯ルノ

程朱等ガ

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡斯ルノ

太平ノ中

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡斯ルノ

二在ア優

ハ固有ノ天性ヲ知テ能ク其力ヲ己レノ職ニ盡斯ルノ

著シ以テ
樂ムヲ見
ハ此ノ形
映法モ亦
學フニ足
レリ、

ヲ觀レバ、則チ極テ太平ノ如キハ何ソヤ、
曰此レ之ヲ回護スルニ、晦菴が著書ノ意
ハ、固是レ孔曾が春秋戰亂ノ間ニ處リ、書
ナ著シ以テ大道ヲ維持スルニ擬ス、故ニ
乱ヲ以テ意ト爲サズ、俛焉書ヲ著シ後ニ
存スヲ務ム、而モ國家ヲ憂ルセ亦深シ、是
ヲ以テ筆ヲ用テ之ヲ回護スルモ亦務メ
タリ、因ナ其筆法、畧言スレバ、第四段ノ
上ノ小段ニ俗儒老佛權謀術數ノ徒が出
ナ世民ヲ惑乱シ遂ニ大亂ト爲ルノ狀ヲ
極寫シ、以テ下ノ小段ニ形狀ス、是ヲ以テ
下ノ小段ニ至テハ、讀者只宋ノ隆盛ノミ
ヲ觀ス、其亂ノ甚キヲ知ラザルヘ、故ニ此
回護ハ抑揚相摩スルノ勢ヨリ生スルヘ、

大學章句序講義

畢

大學講義卷之上

宋 新安 朱熹 章句

大日本 東京 三慶岡道明卿氏口講

門人 同 長岡道謙 筆記

太田錦城
言有リ曰
晦菴ノ意
ハ予之ヲ
知ル矣、彼
ハ孔曾思
孟ノ以テ
道統ノ傳

本文ヲ講スル前ニ、先ツ朱註ニ大ハ舊音
ハ泰今讀テ字ノ如シト言ハレントノ說
ナマセフ、漢ノ儒者達カ大學ニ註サレシ
ヨリ宋ニ至ルマデハ、大ノ字ヲ泰ト云フ
音ニ讀ミマシタ、其故ニハ其頃ノ學者ハ
皆大學ハ宜ク大人君子ノ學びベキ書物
ト看做サレマシタカラ、大ヲ(タ)ノ音ニ
讀ンダノデ有リマス、朱子ハ此說ヲ非ト

道統ノ傳ト爲ス、而ノ說ハ唐シテ論語	シ、大學ヲ以ナ、夏殷周三代ノ大學校ニ於テ生徒ヲ教ルノ仕方ヲ書カレタル書物
儒ニ盛ンハ子思ノ書ヘ、孟子亦一家言	ニ因ナ大ノ字ノ音ヲ大小ノ大ノ字ノ如ク、即ナ(ダ一)ト改メラレマシタ、ソコデ右ノ如クノ註ヲ致シタ者デ有リマス、・次
是ニ於テ程晦菴ガ一師ト爲シ、斯ノ旨ヲ探ヘ持シ	ニ說ヲ可キハ朱熹章句ト題シタル事デ有リマス、朱子カ大學中庸ト同時ニ註サス、而ルニ彼二書ニハ題シテ朱熹集註ト
氏ヲ以テ入、因テ程晦菴ガ一家言ヲ作	申シ、學庸ニ限り朱熹章句ト題サレタル書無シ夫
是ニ於テ程晦菴ガ一師ト爲シ、斯ノ旨ヲ探ヘ持シ	レ孝經ハ是レ曾子ノ書ナルモ、然モ其家學ニ合ハズ、故ニ
朱子ハ程氏ノ著書	タル書ニ、右ノ二種ノ分チヲ爲シタル朱子ノアタシト申セバ、論語ハ孔門ノ御弟子ハ方ガ書キ集メラレタル書デ有テ、孟子ハ孟軻カ作ラレタル書ナレバ、此朱熹が註
朱子ハ程氏ノ著書	ヲ集メタト云テモ、前ノ賢人方ニ失敬ヲシタト申ス程ノ事ハ無ケレバ、ナニ、シテ曾子ノ書ト爲シ、而シテ道統ノ書具ハル焉、是レ晦菴此說善ク
朱子ハ程氏ノ著書	此大學ヲ以テ曾子ノ書ト爲シ、而シテ道統ノ書具ハル焉、是レ晦菴此說善ク
朱子ハ程氏ノ著書	口、中庸ハ孔夫子ノ御孫ナル子思先生が御家傳ノ心法ヲ書キ著ハサレタル御書ニシテ、殊ニ此大學ハ孔夫子カ三代ノ大學校ノ教授法ヲ口授サレシテ、其壹番弟ト仰ガレタル曾參先生が釋キ明カシヲ附ケタル御書デ有レバ、中く我く不肖せ
朱子ハ程氏ノ著書	ト仰ガレタル曾參先生が釋キ明カシヲ附ケタル御書デ有レバ、中く我く不肖せ
朱子ハ程氏ノ著書	サレマゼン、サレバトテ斯ク註シテミレバ、ダマツテモ置カレズ、ヨシノ朱熹章句トシテ置ケバ、只一章二章ト章ノ分ナフ作
朱子ハ程氏ノ著書	之句切リヲ定メタルノミニナル故、定メシ看ル人達モ吾が謙遜シテ斯クセシ
朱子ハ程氏ノ著書	ノ二書ニ斯ク題シタ者テ有リマス、

子程子曰。大學孔氏之遺書。而初學入德。

之門也。

程子ノ云ハレシニ、大學ト申ス
本ハ孔氏ノ家ニ代々言ヒ遺シ

ノ字ハ師節ハ先ツ
ヲ尊ヒ呼大學ノ緣
フノ辭ニ由ヲ說久
シ久下ノ
子ノ字ハ

男子ノ美程說ノニ
稱ハ
存ハノコ

師八世ノ
順序ヲ說
三學問ノ

縣乎ハナ
ラント訓
久・程子

ノ學問ノ
順序ハ朱
子ト少シ

大學ノ道
師ヨリス
レバ教ル
ノ仕方
ノ仕方
問スルノ
仕方
モ本講
教ルノ仕

義育リ、教
則レバ朱
子ハ大學
ノ字ニ二
異レリ、何

大學ノ道
師ヨリス
レバ教ル
ノ次ニ中
庸ヲ置ケ
是ニ由テ
朱子カ四
本ヲ見

大學ノ道
道ハ仕方
心義甚タ
於テ其尤
察セヨ焉
此小節ハ

方ト爲ス
道ハ仕方
心義甚タ
於テ其尤
察セヨ焉
此小節ハ

大學之道。在明明德。在新民。在止於至善。古昔
夏殷

周三代ノ大學校ニ於テ生徒ヲ教ルノ仕方
ハ、第一ニ是非善惡邪正曲直等ヲ明カニ分
ツ所ノ智德ヲ磨坊テ明カニスルニ在リマ
ス、是レフ朱子學家デ大學ノ一綱ト申シマ

第者獨賴此篇之存。而論孟次之學者必
由是而學焉。則庶乎其不差矣。今日ニ於
テ古昔ノ

人達カ學問ノ爲シタル次第順序ヲ見
知ル。ノ出來ル書物ハ、只此大學ノ一

篇ガ世ニ存。居ル計リテ知リマス。若

シ此一篇ガ存シテ居リマセシ者ナラ
バ、迹モ古昔ノ人達ノ學問ノ次第順序

書故、初學ハ先ツ此大學ヨリ讀ミ始人
ハ知レマセニ。サナ此一篇ハ古昔ノ人

達ノ學問ノ次第順序が知レル結構十
書故、初學ハ先ツ此大學ヨリ讀ミ始人
ハ知レマセニ。サナ此一篇ハ古昔ノ人

達ノ學問ノ次第順序が知レル結構十
書故、初學ハ先ツ此大學ヨリ讀ミ始人
ハ知レマセニ。サナ此一篇ハ古昔ノ人

書物デ有リマス。ソレ故ニ世ノ學者達
語ヨリ孟子ト次第ニ學ヒナサレバ、則

ハ必ス此順序ニ由テ大學ヨリ論語論
書物デ有リマス。ソレ故ニ世ノ學者達
語ヨリ孟子ト次第ニ學ヒナサレバ、則

チ其學問ノ順序ハ違
ハヌトデ有リマス、

大學之道。在明明德。在新民。在止於至善。古昔
夏殷

周三代ノ大學校ニ於テ生徒ヲ教ルノ仕方
ハ、第一ニ是非善惡邪正曲直等ヲ明カニ分
ツ所ノ智德ヲ磨坊テ明カニスルニ在リマ
ス、是レフ朱子學家デ大學ノ一綱ト申シマ

ス、是レフ朱子學家デ大學ノ一綱ト申シマ
ス、是レフ朱子學家デ大學ノ一綱ト申シマ
ス、是レフ朱子學家デ大學ノ一綱ト申シマ

ノ字ノ如以チ綱領ト爲ス、

ナ義重キトハ大

者ニ異レリ、

在明ノ明

朱云新ト八磨中立ハ其舊キ

テ、明ニヲ革エタル

スルヲ謂ス故ニミ

カクニ在リト訓ム

ニ宜シ、一綱有ル

新民本トヲ觀テ則

ハ古昔親

ト新ト通皆ノ學問

不可無シ明ノ學ト

ト雖モ初異ナラズ

學ノ解シルヌ、

易キ爲メ

ニ之ヲ改此小節ハ

メタリ、字典ニ云、止ハ至ルシ竟ニ落

ヘト曰フシ以テ德

如ク是非トモ極度

ノ地位ニク、以上

又極度ニ首節ト爲

至ラザレス、

ス、第二ニハ天下ノ人民ノ舊習ヲ除キ去テ之ヲ新ニスルニ在リマス、是ヲ朱子學デ大

學ノ二綱ト申シマス、第三ニハ天下ノ萬事ヲシテ至極ノ善キ地位ニ至ルヲ以テ度ト

スルニ在リマス、是ヲ朱子學デ大學ノ三綱ト申シマス、以上ハ乃チ三代ノ大學校ノ

掲示ノ三綱領デ有リマス、人ニ是非善惡曲邪正曲直等ノ明分スルノ智有リ、因テ是ヲ

呼テ明徳ト謂フ、則レバ明徳ハ明智ノ異名

ニ、古人云、徳ハ得也ト、夫レ人ヤ是非善惡曲直邪正等ヲ明分スルノ智ヲ五官ヨリ得、則

レバ明徳ハ明得ノ義也、且夫レ五官ハ眼耳鼻口膚心、是ヲ以テ入國、邪正善惡是非ヲ明

分スルノ智ヲ五官ヨリ得ルト雖モ、而モ往々五官ノ慾ノ爲ニ掩ハレ、以テ之ヲ明分ス

ル能ハサルハ、亦免カレザル所也、是ニ於テ

ルノ一項有ル所以也、

而后能安、安而后能慮、慮而后能得。天下ノ萬代ノ大學課目ノ綱タル者ニ明徳ヲ明ニス

ルノ一項有ル所以也、

知止而后有定、定而后能靜、靜而后能安、安而后能慮、慮而后能得。天下ノ萬

古ノ聖賢早ク茲ニ見ル有リ、因テ是非善惡ヲ明分スルノ智德ヲ磨礲也、以テ其明白十

ルランダノ如クナラレムルヲ務ム、此レ三

至善ノ地ニ至ラシムルヲ以テ度ト爲スヲ

知リ而シテ后ニ志ガ一定致シ、志ガ一定シテシテ后ニ腦ガ能ク靜也、腦ガ落附キ而シ

テ后ニ心ガ安ラキ、心ガ安ラギ而シテ后ニ是非善惡等ノ何如ヲ能ク慮也、が出來、是非善惡邪正曲直ノ何如ヲ考ヘルト出來、

シテ后ニ明ニ是非善惡邪正曲直ヲ分ツ、ヲ爲シエマス、古人ノ語ニ徳ハ得ルノ義也

バ務メテ
止メズ既

ニ極度ニ
至リ其事

物有本末事有終始知所先後則近道矣。草木等ヲ明ニ分ツノ智慧ヲ明徳ト號ナシマシタ

ヲ止ル、

レ二節、

首段ハ大

学校ニ於

テ生徒ヲ

ノ綱領ヲ

説ク、

考ルベ、

物ノ字ト

事ノ字ハ、

此レ文ヲ

三節ハ上

古ノ聖人

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

類デ有リマス、ダニ因テ先キニ爲ス可キノ

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

學問ノ近カ道デ有リマス、・以上

ガ三代大學校ノ掲示ノ首段ハ、

古之欲

明徳於天下者先治其國欲治其國者先齊

其心欲正其心者先誠其意欲誠其意者先致

其知致知在格物

上古堯舜ノ様ニ已レノ明

八三代ノルノ地ト

於テ次ニ

以テ次ニ

於テ其ハ

射行シタ

ガ大學校

故ニ其義

ハ相同シ

近道ハ捷事ヲ説キ、

此古ノ字

條目ヲ舉

前古ヲ指

ニ晦卷此

時ヨリ其爲ス、而ル

スノ缺、則

レバ堯舜

八條目ト

欲明ハ其

等ヲ指ス

爲スハ文

法ニ晦

ノ繆リ耳

心ヲ正シ

クセント致シタル人達ハ先ツ其自分ノ意

ヲ嘘ウノ無キ様ニ致シマシタ、其自分ノ意

作用ヲ我明徳ハ譬

ヤト申シマシタ、ソコデ是非善惡邪正曲直

等ヲ明ニ分ツノ智慧ヲ明徳ト號ナシマシタ

ニ枝葉ト幹根トガ有ル様ニ、物ニ木ト末ト

ガ有リ、即チ明徳ヲ明ニスルヲ以テ本ト爲

シ・民ヲ新ニスルヲ末ト爲スノ類ノ如シ、人

ヤ畜生ニ・生レルト死スルトガ有ル様ニ、事

靜ハ安靜教ル仕方

ノ綱領ヲ

考ルベ、

慮ハ深ク

事ノ字ト

此レ文ヲ

三節ハ上

古ノ聖人

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

類デ有リマス、ダニ因テ先キニ爲ス可キノ

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

學問ノ近カ道デ有リマス、・以上

ガ三代大學校ノ掲示ノ首段ハ、

古之欲

明徳於天下者先治其國欲治其國者先齊

其心欲正其心者先誠其意欲誠其意者先致

其知致知在格物

上古堯舜ノ様ニ已レノ明

八三代ノルノ地ト

於テ次ニ

以テ次ニ

於テ其ハ

射行シタ

ガ大學校

故ニ其義

ハ相同シ

近道ハ捷事ヲ説キ、

此古ノ字

條目ヲ舉

前古ヲ指

ニ晦卷此

時ヨリ其爲ス、而ル

スノ缺、則

レバ堯舜

八條目ト

欲明ハ其

等ヲ指ス

爲スハ文

法ニ晦

ノ繆リ耳

心ヲ正シ

クセント致シタル人達ハ先ツ其自分ノ意

ヲ嘘ウノ無キ様ニ致シマシタ、其自分ノ意

作用ヲ我明徳ハ譬

ヤト申シマシタ、ソコデ是非善惡邪正曲直

等ヲ明ニ分ツノ智慧ヲ明徳ト號ナシマシタ

ニ枝葉ト幹根トガ有ル様ニ、物ニ木ト末ト

ガ有リ、即チ明徳ヲ明ニスルヲ以テ本ト爲

シ・民ヲ新ニスルヲ末ト爲スノ類ノ如シ、人

ヤ畜生ニ・生レルト死スルトガ有ル様ニ、事

靜ハ安靜教ル仕方

ノ綱領ヲ

考ルベ、

慮ハ深ク

事ノ字ト

此レ文ヲ

三節ハ上

古ノ聖人

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

類デ有リマス、ダニ因テ先キニ爲ス可キノ

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

學問ノ近カ道デ有リマス、・以上

ガ三代大學校ノ掲示ノ首段ハ、

古之欲

明徳於天下者先治其國欲治其國者先齊

其心欲正其心者先誠其意欲誠其意者先致

其知致知在格物

上古堯舜ノ様ニ已レノ明

八三代ノルノ地ト

於テ次ニ

以テ次ニ

於テ其ハ

射行シタ

ガ大學校

故ニ其義

ハ相同シ

近道ハ捷事ヲ説キ、

此古ノ字

條目ヲ舉

前古ヲ指

ニ晦卷此

時ヨリ其爲ス、而ル

スノ缺、則

レバ堯舜

八條目ト

欲明ハ其

等ヲ指ス

爲スハ文

法ニ晦

ノ繆リ耳

心ヲ正シ

クセント致シタル人達ハ先ツ其自分ノ意

ヲ嘘ウノ無キ様ニ致シマシタ、其自分ノ意

作用ヲ我明徳ハ譬

ヤト申シマシタ、ソコデ是非善惡邪正曲直

等ヲ明ニ分ツノ智慧ヲ明徳ト號ナシマシタ

ニ枝葉ト幹根トガ有ル様ニ、物ニ木ト末ト

ガ有リ、即チ明徳ヲ明ニスルヲ以テ本ト爲

シ・民ヲ新ニスルヲ末ト爲スノ類ノ如シ、人

ヤ畜生ニ・生レルト死スルトガ有ル様ニ、事

靜ハ安靜教ル仕方

ノ綱領ヲ

考ルベ、

慮ハ深ク

事ノ字ト

此レ文ヲ

三節ハ上

古ノ聖人

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

類デ有リマス、ダニ因テ先キニ爲ス可キノ

ト後ニ爲ス可キノ辨別ヲ知ルケガ則チ

學問ノ近カ道デ有リマス、・以上

ガ三代大學校ノ掲示ノ首段ハ、

古之欲

明徳於天下者先治其國欲治其國者先齊

其心欲正其心者先誠其意欲誠其意者先致

其知致知在格物

上古堯舜ノ様ニ已レノ明

八三代ノルノ地ト

於テ次ニ

以テ次ニ

於テ其ハ

</div

ヨリ彼ニヘバ珠玉及ホスノノ如シ、故
 詛故ニ輝ニ之ヲ磨カサントケハ磨ク欲スト訓程明ヲ増久即チ明シ光ヲ生カニ示ススルヘ、佛ノ義、徒ガ人ニ
 麥ノ穂ナ謝ユルノドノ長ガ言ニ曰、汝短カ無クノ身ニ如トソロヒ意宝珠有ニ
 摘タルリ、故ニ固ラ齊(タ)トク抱キ失謂フ、齊ハア勿ビ常乃チ平等ニ磨ナ疵ノ義則述ノ義則述ノ義則述ノ義則述
 父母夫婦兄弟妻子此明徳ヲトハ則チツク勿レ
 ノ權力ノ相等キラ者善ク之此明徳ヲ指スヘ、學
 人ノ道ノ三代聖人ノ道之ヲ磨礪シ謂フヘ以
 ト相庚人ノ道ノ文明論ト相庚人ノ道ノ文明論
 見ル可シルモ難キ脩ハ専ラ品行上ニ就テ言フ
 故ニ脩ルニ於テ

ヲ嘘ノ無キ様ニセント致シタル人達ハ先
 ツ其自分ノ智恵ヲ天下ノ萬事ニ致シテ深
 ク考ヒマシタ、サテ其自分ノ智ヲ萬事ニ致
 シテ考ルトハ天下ノ事物、是非善惡邪正
 本末終始等ノ理ヲ推シ格成(ト)テ有リマス、
 此レカ乃チ上古ノ堯舜ノ如キ人達が躬自
 ラ大學校掲示ノ八條目ヲ行ヒタル大眾ニ至
 リ、突然ト(大學ハ謀叛ノ書ヘ、而ルニ君達好
 テ之ヲ學フヲ見レバ、則チ君達ハ謀叛人也
 ト言ヒケレバ、一坐愕然ト皆駭キケル、時ニ
 祖徳又徐(タ)何則(タ)君達ハ庶人ノ身ヲ以
 テ・明徳ヲ天下ニ輝サント欲スル者ナレバ、
 此レ謀叛人ニ非バシテ何ンデ有リマスゾ
 壮ノ時此詰ヲ故老ヨリ聞キ、誠ニ以テ妙ト
 ハ爲セリ、因ナ常ニ支那人民ガ皆悉ク明徳ヲ
 天下ニ輝カシテ謀叛スルヲ願フヘ、其故何
 バ輒チ文明文明ト云ヒナサルガ、其文明ノ
 極度ト云フ者ハ、即チ世界中ノ人ガ身ニ大
 學ノ八條目(履)ミ行ヒ、以テ明徳ヲ天下ニ
 輝カスノ地ニ至リシヲ謂フヘ、蓋(タ)文明學
 ノ書ニシナ早ク世ニ顯ハレタル者ハ、則チ
 此大學ヲ以テ最ト爲シ、而シテ彼ノ三代ノ
 輝カサント欲スルノ志ヲ立て、俛焉以テ其
 力ヲ格物致知誠意正心脩身齊家治國平天
 下ノ八課ニ盡シ、敢テ邪惡奸佞曲非ノ事ヲ
 顧ル者無シ、此ノ時ニ當テヤ、盜賊化シ善人
 君子ト爲リ、遺物オトシ道ニ満チ、兵器鏽デ出
 ニ化ス、試ニ戰國ノ時ニ人敢テ邪惡姦佞暴

身ハ正ニラヤ其レ
其身ノ行焉フ勤メ
状ヲ方正ヨ、其レ焉
温潤謙遜ヲ慎シ
ニスルヲヨ、謂フ、
臺末ノ偽ノ力有リ
リ無キテ之ヲ號シ
誠ト言フ、分別力ト
故ニ誠ニ言ヒ、又呼
スルト公テ分別ノ
少シモ偽此鏡ヤ年
飾スルノ老ルニ
無キ様ニ隨ヒ次第
スルヲ謂ニ磨礪シ
フハ、鋪端ヲ生
形無クレスルヲ無
テ靈ナルキニ至ル
ヲ魂ト云故ニ老人
ヒ天ヨリハ大抵是
此魂ヲ人非善惡邪
ニ賦與ス正等ヲ能
ルニ就テク辨別シ
之ヲ言ヘテ迷フ無
ハ即チ性シ少壯血
八性ノ人氣ノ盛ナ
ルヲ神ト鏡ニ鋪有
謂ヒ、其神リ且動ス
ノ人ノ作レバ聖垢
ヲ蒙リ易用ニ與忍

逆ノ事ヲ爲シ一人明徳ヲ天下ニ輝サント
欲スル者無キヲ執テ之ヲ較ブレバ全色
天ト地程ノ違ヒニ是ニ由テ見ナサレヨ、三
代ノ文明ハ人ノ明徳ヲ天下ニ輝サント欲
スルノ謀叛ニ成リシ者ニテ此レが眞誠ノ
文明ト云フ者デ有リマス、故ニ今ノ西洋ノ
至テハ則チ彼ノ青目赤髭先生ノ中ニハ、隨
派相傾クヲ以テ世ニ立ツノ手段ト爲スラ
分道徳ノ勝スタル者が多キ様子ナレモ、黨
以テ之ヲ觀レバ、則チ其レ豈ニ眞ノ道徳ナ
ランヤ、其レ豈ニ誠ノ文明ナランヤ、今乃ル
ニ吾願フ所ノ如ク支那ノ人民が能リ三代
ノ遺業ヲ繼キ、明徳ヲ天下ニ輝スノ謀叛ヲ
企ルガ爲メニ、躬カラ八條目ノ課業ヲ務メ
以テ身ニ眞ノ道徳ヲ蓄ヘ、因テ以テ誠ノ文
明世ヲ興シナバ、助チ彼ノ青目赤髭共ハ胄
ヲ脱ヌ先ヲ競フテ降參スルニ相違無キ、
斯ク申シナバ或^カ然カラバ支那ハ餘リ明
徳ノ君子が多クナリ過キル爲ニ大乱國ト
ナラント曰フ心配家モアル可ケレモ、其レ
ハ少シモ心配ニ及ハズ、君達ハフラン
コトブリッキノ茶壺ヲ知リナサラヌカ、舊幕
ノ時ニ夫ノ兩器ヲ所持スル者ハ、大名カ、抑
サナ^カ大名ノ家老若クハ鴻池ノ様ナル者ニ
限リタリ、其レモ彼ノ富貴者ガ皆々持ツト
云フニ非ズシテ、稀ニ之ヲ所持スル者ガ有
ルト云ノ程ナリシが故ニ、當時ノ人々ハ皆
目ナ^カ之ニ注キ、金銀ヨリモ貴キ物ト思フタ
リシカ正、今日トナリテハ、フラソコハ土棄
ス^カ顧ミル者モ無ク、ブリッキモ珍シト思ハス
ハ、其品ノ多クナリシ故デ有リマス、此話ヲ

ノ理ヲ窮
ルヲ吉ス

何則レバ
誠意正心

脩身治國
平天下ノ

六課ハ是
非善惡邪

正曲直ヲ
非惡邪曲

辨別シ其
ヲ除キ去

是善正直
テ而シテ

ヲ採取ス
ハニ過ヤ

時ハ目耳鼻口膚ノ五管ハ始テ浮世ノ事物

ニ接スルヲ以テ、我ヨリ其智惠ヲ事物ノ上

ニ致シ及ボサネバ、何ノ理モ分ラヌハ、嬰兒

時ガ指ヲ火ノ中ニ入レネバ、火ノ熱ヲ知ラ

又ノデ知レマス、其如ク天下萬般ノ事ハ、始

メニ於テハ我ノ智惠ヲ佗クニ致サネバ、知

レヌ者故、上文ニ在テハ致其知ト書キタル

者デ有リマス、而モ我ノ智惠ヲ萬般ノ事ニ

致スノ久シキ、五管既ニ寒熱辛甘是非善惡

等ノ事ヲ熟知ヨ迄ノ後ニ至レバ、見ルニ隨ヒ

聞クニ隨ヒ、能ク之ヲ辨别スル、猶事物ノ來

テ我ヲ教ルコトシ、一ノ譬テ舉テ云テミレ

バ、大人ハ膚ヲ以テ觸^タタルモ、火ヲ視レハ

即ナ其熱ヲ知リ、氷ヲ看レバ即ナ其冷ヲ知

ル様ニ天下萬般ノ事物ガ常ニ我身ニ來リ

ア我ヲ指南シ、以テ我智惠ノ歩ヲ進ルガ故

ニ、茲ニハ知至ト書キシ者ヘ、是ヲ觀テ思ヘ

人壹是皆以脩身爲本。

三綱領ヤ八條目ト區別

テミレハ、大學

校ノ學課ハ多端ノ様ナレバ、天子様ヨリ庶人ニ至ルマテ、其實ハ總テ皆身ヲ脩ルノ一

課ヲ以テ根本

ト致シマス、

其本亂而末治者否矣。其所

厚者薄而其所薄者厚未之有也、

一體此身ハ功業ヲ立ル

根本ナル故、飽ク迄モ半厚ク脩メナケレバ

ナラズ、天下ハ此身ニ較ベテ看バ、校末ナ

庶人ハ平
民ヘ、

本ガ治マ

ルノ理無

根柢ナル故、飽ク迄モ半厚ク脩メナケレバ

ナラズ、天下ハ此身ニ較ベテ看バ、校末ナ

テザレバ

此小節ハ

ノ法ヲ以テ根本ト爲ス

ア之ヲ假リ用ア今ノ職理ノ義上爲スハ不可無シ、

本ガ治マ

ルノ理無

朱子云、壇

キフ論シ

是ハ一切

以ア上文

迄ニ、

ヲ總収ス

本ハ脩身

・以上ヲ

ヨリ正心

合ア五節

誠意マデ

ト爲ス、

總テ身フ

經文ハ茲

脩ルニ關

經文ハ茲

脩ルニ關

經文ハ茲

務メタ指

經ト云シ

末ハ平天

序文ニ聖

下ヨリ治

上ヲ指ス

國齊家マヘ

起手ノ大學之道ノ句ヨリ茲ニ至ルマズ

フ脩ルニ

ハ、古今未タ之レ有リマセン、・以

テ總ア身

上ガ三代大學校掲示ノ二段ヘ、

ヲ傳ヘ以

起手ノ大學之道ノ句ヨリ茲ニ至ルマズ

否矣ハア

ノ文ヲ誦

テ後世ニ

或ハ只經トノミ言ヒ、又ハ呴ア經文ト申

ヲザルナ

ノ文ヲ誦

詔クト云

ノ文ヲ誦

リト訓ム

ハレシハ

即チ孔夫

始メ胡籍溪・劉草堂・劉屏山ノ三子ニ從テ

フ断スル

子が以上

ノ文ヲ誦

學ヒ、年二十三ノ頃ヨリシテ延平ノ李先

弟于ニ傳

生ニ從事シ、以テ道學ノ傳ヲ受ケマシタ

ヘテ後世

サア道學ト云フ者ハ濂溪先生ヨリ起り、

ニ存シタ

程明道・程伊川ニ至リ稍大ト爲リ、ソレヨ

ルヲ謂フ

來リ、竟ニ李延平ヨリ之ヲ晦菴ニ傳ルニ

ヘテ參看ス

至リマシタ、晦菴年三十九ノ時ニナリ、自

可シ、

ラ程氏ノ遺書ヲ編成セシヨリ、自ラ程氏

經集註等ヲ作リ、最モ後ニ至リ最モ神ヲ

テ將ニ一家ノ學ヲ作シテ永ク之ヲ不朽

シテ論語集註・孟子集註・周易本義・詩經書

ル故、幾分カ手薄スニ世話ヲ燒テ宜ク有リ

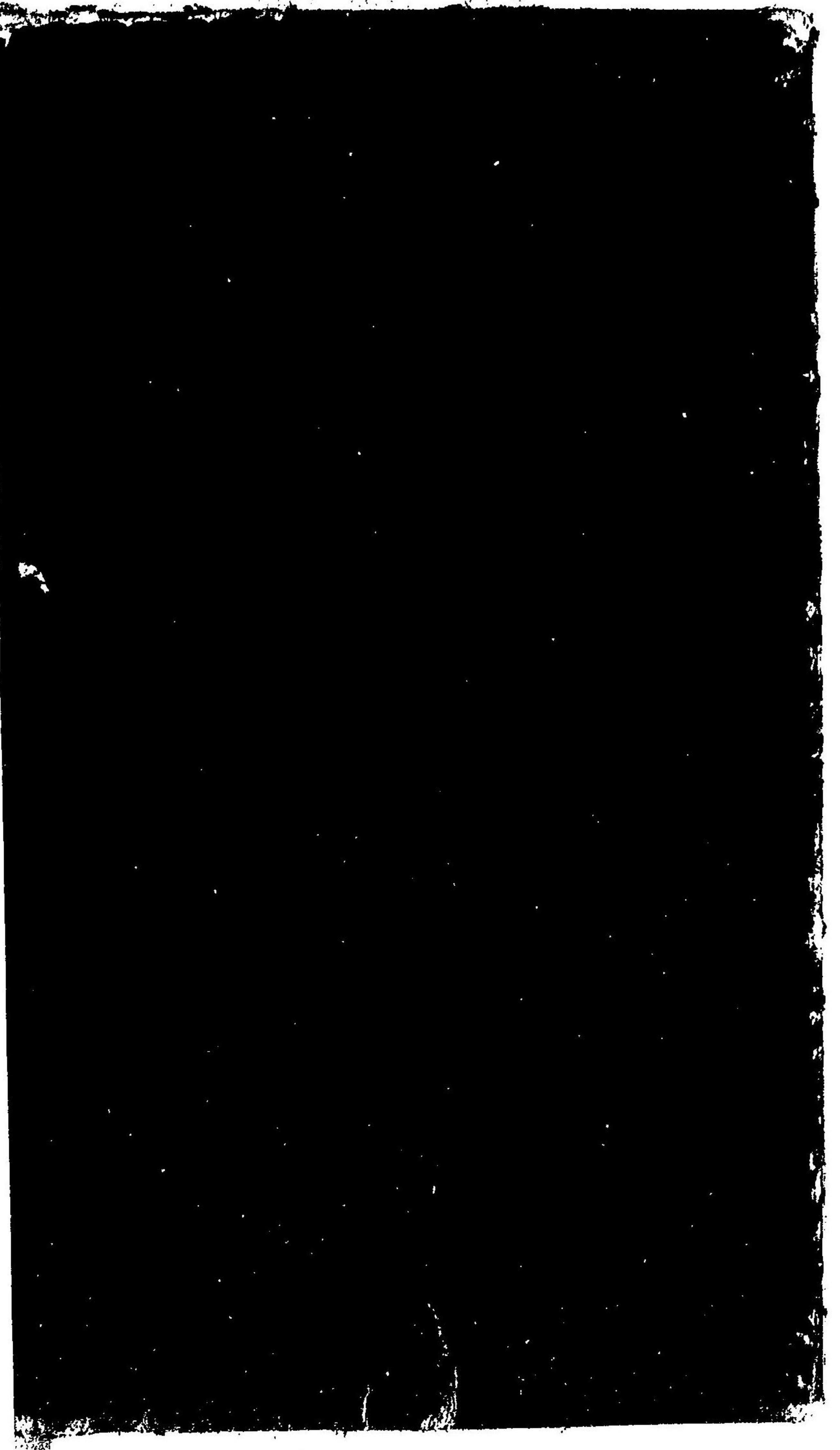
マス、其レ故ニ明徳ヲ天下ニ輝サントスル

書ノ白鹿洞ニ講シ	盡シタルハ、學庸ノ章句テ有リマス、中ニ就テ尤モ奇ナル考ヘラ附ケタルハ、此大
因テ自ラ白鹿洞ノ	學テ有リマス、其考ヘト申スハ、以上ノ文ハ、本ト是レ三代大學校ノ木札ニ畫タル
掲示ヲ作ベソハ全	掲示ナリシヌ、孔夫子カ諧記シテ居リ之ヲ其御弟子ニ口授セシ者ヘトテ、遂ニ割
ク以上ノ文ノ經文	キ分テ聖經ト定メマシタ、カ、ル故カラシテ朱子學家デハ、右ノ通り呼ビマスノト爲シタ
ト爲シタデ有リ	マス、
右ハ以上ル脚色ニ	
ノ經文ヲ做フニ	
指入	
蓋ハソハト訓ム上	
ア承ケ説クノ純	

大學經文講義

畢

右經一章蓋孔子之言而曾子述之。右經文ノ
一章ハ、ソハ孔夫子ノ口カラ言ヒ玉ヒ
タル者ニア、曾子ガ之ヲ書述ベマシタ、





008592-001-5

特36-529

大学講義

岡 三慶／述

上

M18

AAC-1456

